

## 第9章

### 事業効果の評価指標の設定

## 目標値の設定

立地適正化計画を策定した場合、概ね5年毎に計画に記載された施策・事業の実施状況について調査、分析及び評価を行い、本計画の進捗状況や妥当性等を精査、検討することが望ましいとされています。この評価を行う際に必要となる目標値について、次のとおり定めます。

### ①居住誘導に関する目標値

	単位	基準値	中間値	目標値
		H27(2015) (H22 国調)	R7(2025) (R2 国調)	R17(2035) (R12 国調)
居住誘導区域内の人口密度	人/ha	52.9	49.8	51.7
総人口に対する居住誘導区域内に住む人口比率	%	43.0	45.0	51.3

### ②都市機能誘導に関する目標値

	単位	基準値	中間値	目標値
		H27(2015) (H26 調査)	R7(2025) (R6 調査)	R17(2035) (R16 調査)
都市機能誘導区域内の歩行者・ 自転車交通量※	人/日	24,373	20,166	24,286

※都市機能誘導区域内の歩行者・自転車交通量は、中心市街地活性化基本計画による調査16地点の平日合計値  
第2期三原市中心市街地活性化基本計画（令和5(2023)年4月）から掲載

### ③公共交通に関する目標値

	単位	基準値	中間値	目標値
		H27(2015) (H26 調査)	R7(2025) (R6 調査)	R17(2035) (R16 調査)
車を利用しない市民の日常移動に 対する満足度※	%	35.0	34.9	35.0を上回る

※車を利用しない市民の日常移動に対する目標値は、車を利用しない人に限定した満足度  
三原市地域公共交通計画（令和7(2025)年3月）から掲載

### ④財政に関する目標値

	単位	-	基準値	目標値
		-	R7(2025) (R6.3時点)	R17(2035) (R16.3)
公共施設の延床面積削減率 (対平成26年度比)	%	-	5.9%	15.0%

三原市長期総合計画（令和7(2025)年3月）から掲載

■参考 目標値の設定方法

①居住誘導に関する目標値

国の推計によれば居住誘導区域の人口は、平成 22(2010)年の 43,090 人が令和 12(2030)年には 39,153 人に、人口密度は 52.9 人/ha から 47.9 人/ha に減少し、総人口に対する居住誘導区域内に住む人口比率は 47.5%となります。このまま人口密度が低下すると日常生活に必要な施設である商業施設や医療施設、銀行の施設が失われる可能性があるため、これらの施設数が維持されるように、令和 12(2030)年の人口目標について、国の推計から概ね 8%増加を目指します。

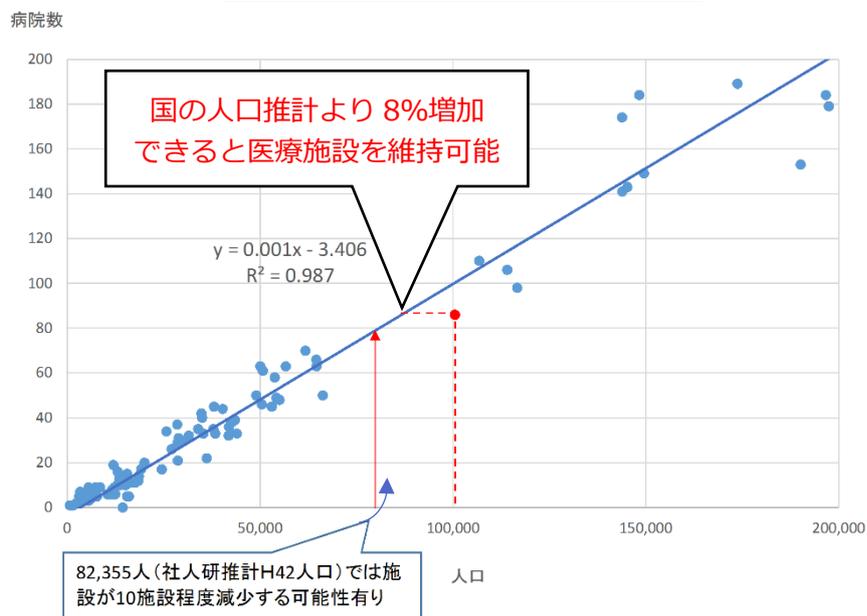


図 中国地方の自治体人口と医療施設数の関係

資料：自治体の人口…国勢調査（平成 22(2010)年）、医療施設…医療施設（静態・動態）調査（平成 26(2014)年度）

②都市機能誘導に関する目標値

第 2 期三原市中心市街地活性化基本計画では、中心市街地の平日 1 日当たりの通行量について、令和 2(2020)年時点で 21,575 人であったものを、各種活性化事業を実施することにより、歩行者・自転車通行量の減少を抑え、目標年次である令和 9(2027)年に約 1.1%増の 24,286 人とするを目標としており、本計画においても中心市街地活性化基本計画と同様の施策によって都市機能の誘導を図ることからこの数値を目標値とします。

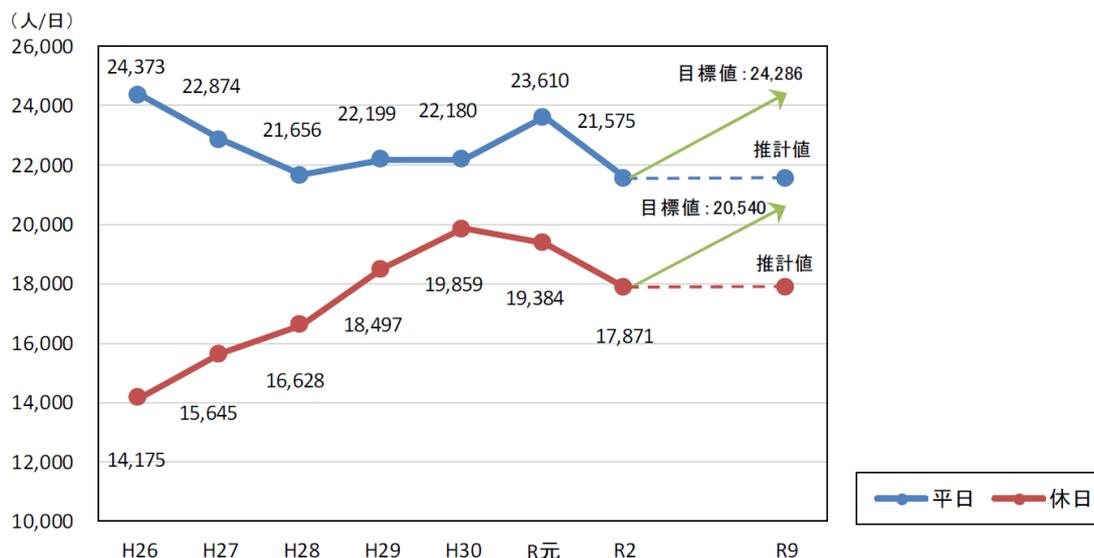


図 歩行者・自転車通行量の推移及び目標値

資料：第 2 期三原市中心市街地活性化基本計画（令和 5(2023)年 4 月）

### ③公共交通に関する目標値

三原市地域公共交通計画において、人口減少・高齢化社会の暮らしを支える移動手段を確保すること、地域公共交通を守る意識を醸成することを目標として掲げており、「自動車を利用しない市民の日常移動に対する満足度」を目標値としていることから、公共交通ネットワークの形成を目標とする本計画においてもこの数値を目標値とします。

表 自動車を利用しない市民の日常移動に対する満足度 令和6(2024)年度値

	件数	構成比	基準値
大変満足	39	10.9%	34.9%
やや満足	86	24.0%	
普通	101	28.2%	36.9%
やや不満	77	21.5%	
大変不満	55	15.4%	
合計	358	100.0%	

- ・市民アンケートにおいて、「自由に使える移動手段」で自動車以外を選択したサンプルが対象
- ・「日常生活での移動に満足していますか」の質問で「大変満足、やや満足」の回答者の構成比を指標値とする（不明・無回答を除く）

※不明・無回答35件を除き構成比を算出

資料：三原市地域公共交通計画（令和7(2025)年3月）

### ④財政に関する目標値

三原市長期総合計画において、適正な財政運営の推進を施策として掲げており、公共施設の機能の複合化・集約化等による「公共施設の延床面積削減率」を成果指標の1つとしていることから、本計画においても、健全な財政の維持を評価する指標としてこの数値を目標値とします。

## 基本方針 3

「公共施設類型別実施計画」に基づき、機能の複合化・集約化等による建物床面積の削減を推進します。

#### 成果指標

指標の名称	現状値（時点）	目標値（10年後）
公共施設の延床面積削減率（対平成26年度比）	5.9% (令和6年3月)	15.0%

資料：三原市長期総合計画（令和7(2025)年3月）

## ■期待される効果の定量化

目標値と同様に、この目標達成により期待される効果を定量化することは、立地適正化計画の必要性・妥当性を客観的に示す上で重要とされています。前頁の目標の達成により期待される効果を定量的に示します。

### ①居住誘導と③公共交通の目標値に対する効果

	単位	基準値	中間値	目標値
		H27(2015)	R7(2025) (R6)	R17(2035)
路線バス利用者 1 人あたりの経常経費	円/人	368	476	368 を下回る

### ②都市機能誘導の目標値に対する効果

	単位	基準値	中間値	目標値
		H27(2015) (H24)	R7(2025) (R3)	R17(2035)
小売業販売効率(売場面積あたりの販売額)	千円/m <sup>2</sup>	671	758	671 を上回る

## ■参考 期待される効果の定量化の設定方法

### ①居住誘導と③公共交通の目標値に対する効果（路線バス利用者 1 人あたりの経常経費）

居住誘導区域の人口密度を一定水準で維持し、公共交通の維持・活性化により、路線バス利用者が増え、その経常経費が下がることを期待される効果の定量化指標とします。

### ②都市機能誘導の目標値に対する効果（小売業販売効率）

都市機能の誘導により小売業の売場面積が圧縮されるとともに、都市機能誘導区域内の歩行者・自転車通行量が増加することで、小売業の年間販売額が比例して増加し、販売効率が向上することを期待される効果の定量化指標とします。

## 施策の達成状況に関する評価方法の設定

コンパクトなまちづくりの推進に向けては、どのような都市構造を目指すべきか、客観的かつ定量的な分析、評価のもと、市民をはじめとする地域の関係者でコンセンサスを形成することが重要です。

都市構造のコンパクトさを多角的に評価する手法として「都市構造の評価に関するハンドブック」（平成 26(2014)年 8 月：国土交通省都市局都市計画課）に示されている生活の利便性、健康・福祉など 6 つの分野から評価する手法があります。今後、これらに示された手法を参考に、本市の都市構造の評価を概ね 5 年ごとに実施していきます。

また、本計画については、概ね 20 年後の都市の姿を展望するとともに、併せてその先の将来も考慮する必要があり、必要に応じて計画の見直し等を行う動的な計画として運用すべきであり、人口動向や社会経済情勢の変化等、必要に応じて適宜見直しを行います。